

DVD

イタリア・オペラの魅力について 歌劇「セヴィリアの理髪師」

ロッシーニ

大学院 修士課程 声楽専攻1年 山口義生

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。国立音楽大学には素晴らしい施設が沢山ありますが、中でも図書館は様々な楽譜、音源、映像が揃っていてとても充実している施設です。僕が今回取り上げるのは、ロッシーニという作曲家が作曲した「セヴィリアの理髪師」というオペラです。

舞台はスペインのセヴィリア。若くてイケメンの大金持ちの貴族、アルマヴィーヴァ伯爵はこの町に住む美しい娘ロジーナに一目惚れ。夜明けに楽隊を率いて家の前で愛のセレナードを歌いますが彼女は現れず。と、そこに伯爵の元従者で町の何でも屋フィガロが、なんとロジーナとくつつきたい伯爵は、フィガロにどうにかしてくれと頼み込みます。あれやこれやと作戦を練って、実行する二人。しかしロジーナは医者であり後継人のバルトロによって家から一步も出られない苦しい状況。音楽教師のパジリオや女中のベルタも巻き込んで大騒ぎ。しかし、作戦を執行していくうちにお互いに惹かれあつていくロジーナと伯爵。最後は伯爵とロジーナは結ばれ幕というドタバタ喜劇です。

セヴィリアの理髪師の映像資料は図書館に沢山ありますが、最もお勧めの映像はこちらです。キャスト アルマヴィーヴァ伯爵：ファン・ダイエゴ・フロレス（テノール）ロジーナ：マリア・パリーヨ（ソプラノ）フィガロ：ピエトロ・スパニョーリ（バリトン）（敬称略）

今世界でロッシーニを歌わせたら右に出るものは居ないと言われるテノールの、ファン・ダイエゴ・フロレスがアルマヴィーヴァ伯爵役です。どんなに細かい音や高い音でも完璧に歌いこなすテクニクや、柔らかい声。歌唱力や演技、どれをとっても申し分無い歌手です。ロジーナ役のマリア・パリーヨも澄んで美しい声を持つソプラノだし、フィガロのピエトロ・スパニョーリも明るい声の素晴らしいバリトンです。是非、この国立音大図書館で借りる最初の資料をこの「セヴィリアの理髪師」にしてみてください。おわりに：僕は声楽科なのでオペラについてご紹介しましたが、国立音大の図書館は資料が豊富です。一日中居ても飽きない素晴らしい施設なので、是非沢山活用して下さい。新入生の皆さんのご活躍を心より応援致します。



歌劇『セヴィリアの理髪師』
ロッシーニ作曲 ユニバーサル
クラシックス UCBD1039/40
請求番号●VE1331

●やまぐち よしお

楽譜・CD

モーツァルトの贈り物

演奏学科声楽専修4年

檜山悠

モーツァルトは生前多くの作品を残し、その多くは今も演奏され広く親しまれています。中でも最後の作品《レクイエム 二短調》は、誰もが一度はどこかで聴いた事があるのではないのでしょうか。最近では妻木木さん演じるロト7のCMに挿入されています。この作品は完成前にモーツァルトが亡くなり、その後第三者によって補筆が行われたことで有名です。現在主に演奏されるのはジュースマイヤーによって補筆された版ですが、ジュースマイヤー版の批評には賛否両論あります。この補筆については、私達のような研究者ではない人間でも、聴いていて何となく違和感を覚えます。ジュースマイヤーの補筆後も、その様式、技法がモーツァルトの作品に適しているのか疑問視され、多くの研究家が加筆修正しました。加えて新たに発見されたスケッチも研究成果に加わり、他の多くの版の誕生を手伝いました。私は《レクイエム》を聴くうちに、この違和感は果たして補筆された部分なのか、それとも思い違いなのか気になりました。直筆譜のファクシミリ版を見る事にしました。直筆譜は最後の最後まで丁寧に書かれました。演奏を聴きながら楽譜をたどると、当然ですが最後には白紙のページが出てきます。モーツァルトがここまでしか書けなかった事を

●ひやまゆう モーツァルト大好き



『モーツァルトレクイエム 二短調 直筆譜ファクシミリ版』
Bärenreiter 請求記号●H31-731 A9-545
『レクイエム ベストクラシック100』リリング指揮
CBS/ソニー 30DC802 請求記号●XD1648

想うと、思わず涙を流さずにはいられませんでした。あえてどこまで書いてあつたかは書きません。ぜひ、ご自分の目で確認して下さい。
実際に楽譜をみるとその興奮はより大きなものに成ると思います。さて、この他の有名な版に、バイヤー版、モーンダー版などがありますが、例えばモーンダー版ではジュースマイヤーによって作曲されている部分が削除されています。しかしジュースマイヤーオリジナルの『アニュスデイ』は、モーンダーも削除しませんでした。『アニュスデイ』にはモーツァルトらしい技法がみられたからです。ジュースマイヤーはこのレクイエムの補筆に関わり、いい影響を受けたのではないのでしょうか。モーツァルトが未完で残したこの作品は未完成だからこそ、今日多くの研究者を生み出したのではないのでしょうか。興味をもつて意識した瞬間から、あなたも研究者の仲間入りですね。

以前に、ベートーベンのおペラ『フィデリオ』

目覚ましい回復を遂げたのだ。
そのな彼を支えたもの、それこそが「愛」だった。みんなが彼を支えようとした。力になりたいと思った。思いは天に届く。骨髄移植を経て彼は

「この世の何よりも きみを愛す まぎれもなく、永遠に 君を愛す」彼は第一曲で故郷バルセロナの言葉であるカタロニア語で堂々と歌い上げる。ホセ・カレラスの完全復活を世界に示した瞬間だった。冒頭のフレーズは、アンデルセンの詩にグリーグが作曲した「君を愛す」の一節である。このとき彼は何を思っただろう。「愛」と口で言うのは簡単である。毎日世界中で数えきれない「愛」が消費されている。しかし、この時のホセから湧き起こる「愛」ほど人の心に素直にしみこむものは、どれだけあろうか。
ホセは1987年40歳の時、白血病になった。あるデータでは5年生存率25%だという。治療は苦痛を伴う。それは患ったことがない者が易々と表すことができるものではないだろう。そんな病魔と彼は闘った。そこには私たちの知らないホセ・カレラスがいたはずなのである。そんな彼を支えたもの、それこそが「愛」だった。みんなが彼を支えようとした。力になりたいと思った。思いは天に届く。骨髄移植を経て彼は

CD

カレラス奇跡の 復活コンサート 〜愛に生かされた男〜

演奏科声楽専修2年
鈴木大樹

を見に行った。フィナーレで、「自由は愛が導いたのだ」と高らかにうたう。フィデリオを初めて観た私は、観劇後とても興奮していた。それはベートーベンが記した自由への賛歌が私にはあまりにも鮮烈なものだったからだ。私はフロレスタンのような受難を経験した事はない。それでも、人は自由を追い求めるもので、そこには「愛」の存在が必要なのであるという実感を得た気がした。このとき、愛によって病という鎖から解放されたホセの姿が私の心には浮かん

でいた。
彼は自らが受けとつた愛を今もなお世界におかえししてくれている。20世紀から21世紀を生きた心霊診断家エドガー・ケイシーがこんな言葉を遺している。「音楽は、聴衆の心と魂の中に最高のものを、最高の希望、最高の願いを起こさせ、目覚めさせる手段となるだろう。」「音楽療法」(中央アート出版社 シャーリー・ラブ・ウィンストン著) ホセの音楽こそケイシーの言う音楽である気がする。ぜひ聴き、感じていただきたい。



『The come back concerts』
José Carreras Pilz 44 1001-2
請求記号●XD24315

●「すずき たいき 塾講師をしていてある小学生に「せんせい 56歳?」と言われました: そんなにおじさんかなあ(泣)